

官民比較の考え方

官民比較の審議にあたっては、基礎評価項目と具体的な官民比較の評価基準を設定。

●基礎評価項目

①サービス水準 <現状と同等程度のサービス水準を維持できること。>

②法令遵守等 <当該業務にかかわる法令や個人情報の保護等の法令遵守を行い得ること。>

【※官民比較の審査で重視すべき事項。(業務ごとに情報開示シートで明示)】

●具体的な官民比較の評価基準

①サービス水準の向上

<サービス水準の質的向上がどの程度図れるか。>

②経費の削減(事業経費等の比較)

<事業経費等の合計について、現状と比較してどの程度削減することができるか。特に10%削減を一つの目安として評価を行う。>

③ ①(サービス水準の向上)と②(経費の削減)の関係は、同等程度の割合で評価。

④提案の実現可能性

<民間事業者等が提示した経費は、提案の内容を実現するにあたって著しく不合理な点はないかなどに留意して提案の評価を行う。>

大阪版市場化テストの官民比較手法

1つの提案毎に

評価項目	評価	評価内容
(1) 基礎評価		
①サービス水準	○	
②個人情報の保護等	○	
③趣旨に沿った提案	○	
(2) サービスの質の向上		
①府で実施するよりも優れている点	◎	
②実施手法（具体性等）	○	
(3) コスト		
①どの程度削減できるか	△	
②提案内容との関係	○	
(4) 提案の実現可能性		
①組織運営体制	○	
②類似業務の実績等	○	

コストについて

項目		府	提案
人件費	常勤職員（直接人件費）		
	非常勤職員（直接人件費）		
	退職給付費用		
	間接部門費		
人件費以外			
計			

(○○業務)

項目		提案1	提案2	提案3	...
(1)	①	○	○	×	...
	②	○	○	×	
	③	△	○	×	
(2)	①	◎	○		...
	②	○	△		
(3)	①	△	○		...
	②	○	×		
(4)	①	○	○		...
	②	○	○		



これを踏まえ総合的に評価



各業務毎に官民比較の評価ポイントを

詳細に情報開示

⇒別添資料④

新たな対象業務の民間開放について

平成21年9月10日に開催した大阪版市場化テスト監理委員会において、サービスの向上やコスト削減、提案の実現可能性の観点で、官民比較の審議が行われました。その結果を踏まえ、大阪府として、対象業務の民間開放の可否を決定しました。

業務名	提案件数	民間開放の可否
税務業務	8件	民間開放
府営水道管理運営業務	6件	民間開放
監査業務	5件	民間開放
府立図書館管理運営業務	6件	民間開放
宅建業免許申請受付等業務	11件	民間開放
医薬品承認申請受付等業務	5件	民間開放しない
居宅サービス事業者及び障がい福祉サービス事業者等指定申請受付等業務	7件	民間開放
合 計	48件	

⇒別添資料⑤

モニタリング

A 基礎的項目

(公共サービスの担い手としてふさわしい取組み姿勢・体制づくり・人材育成等の観点から評価する項目)

- 適切な人員体制
- 責任体制の確立
- 人材育成
- 安全管理体制
- 個人情報保護
- 情報提供
- サービスの継続性

B サービスの提供に関する項目

(利用者の満足度の観点から評価する項目で業務毎に具体的に設定するもの)

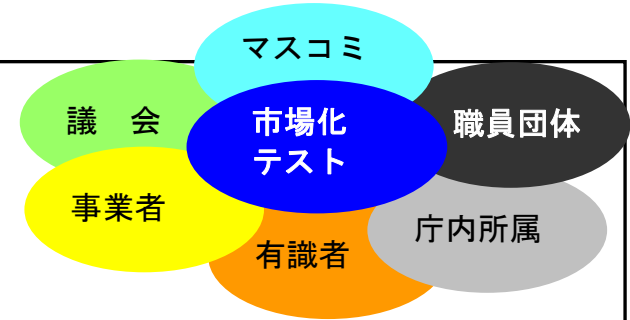
- 利用者の満足度調査
- サービス水準の確保
- 計画的運営
- サービスの質の向上に向けた取組み
- その他創意工夫

大阪版市場化テストの意義

市場化テストをめぐる状況は複雑。

とくに、

- ◎マスコミは、市場化テスト＝官民競争入札という“固定観念”。
- ◎庁内的には、“自分たちの職域を荒らされる”という思い。
⇒方向は違うが、“殻を破る、破られる”という思い。



では、殻を破る、破られるとは何か。これこそが市場化テストの意義である。

●公共サービスの質の向上と効率化（サービスの殻を破る）

官と民が互いの強みを活かしながら、公共サービスの質の向上と効率化を実現。

●職員の意識改革（意識の殻を破る）

市場化テストの特徴は、官側がまず情報開示した上で、検討の過程をオープンにすること（民の提案、監理委員会の検討）や官もよりよいサービスを提供する手法を考えること。100%決まったものしか、オープンにしないというのではなく、まず、いろんな知恵やアイデアを借りながら“やってみる”ことの大切さ。

●組織の刷新（組織の殻を破る）

官民比較の結果、民間開放となれば、組織のスリム化を図りながら、資源を集中しなければならない業務（コアコンピタンス）や組織のあり方を模索。

